

令和4年度 第1回いしかわ森林環境基金評価委員会 次第

日時：令和4年11月17日（木）13時30分～16時40分

場所：石川県立図書館 2階研修室

1 現地視察 13：30～

(1) 県産材活用事例紹介（13：40～14：30）

①株式会社谷口

（令和2年度いしかわの木づかい表彰県産材利用製品部門受賞）

②HUM&G o#（ハムアンドゴー）

（令和4年度いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業）

(2) 石川県立図書館（県産材活用施設）館内視察

（14：30～15：30）

2 評価委員会 15：40～

議事

(1) いしかわ森林環境基金事業の令和3年度及び第3期（H29～R3）の取組実績

(2) いしかわ森林環境基金事業の令和4年度の取組内容

(3) その他

いしかわ森林環境基金評価委員会 委員名簿

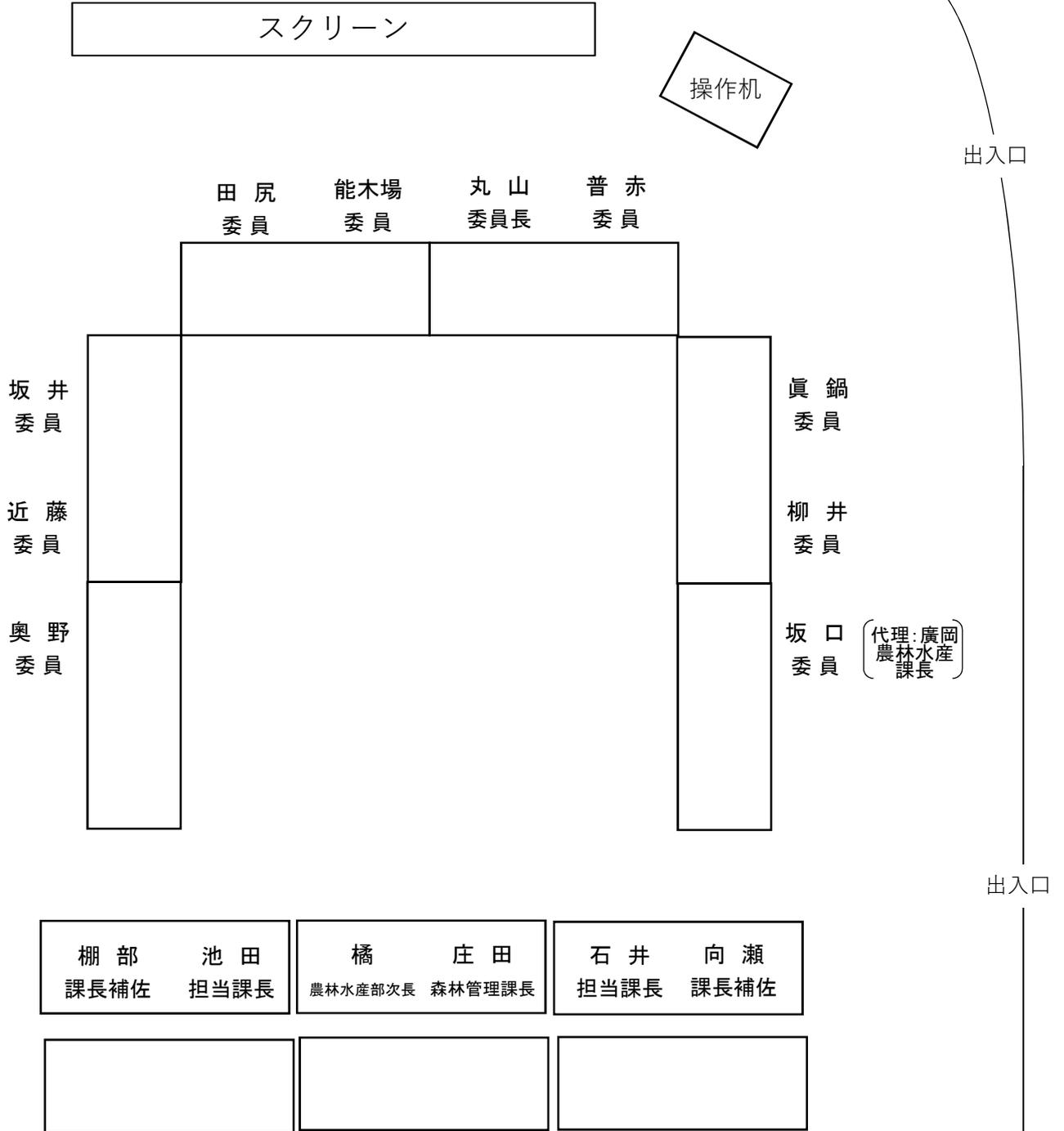
氏 名	役 職 等	出欠
おくの 奥 野 みやこ 美彌子	みらい子育てネット石川県地域活動 連絡協議会 会長	
さかぐち 坂 口 しげる 茂	輪島市長	欠席 (代理：廣岡 農林水産課長)
こんどう 近 藤 やすため 安 爲	石川県森林組合連合会 代表理事会長	
さかい 坂 井 よしみ 芳 美	石川県商工会女性部連合会 副会長	
たじり 田 尻 すみえ 純 江	石川県建築士会 副会長	
なかがわ 中 川 かずなり 一 成	石川県町会区長会連合会 会長	欠席
なかだ 中 田 みちよ 実千世	石川県社会福祉協議会保育部会 保育士会会長	欠席
のきば 能木場 ゆきこ 由紀子	石川県婦人団体協議会 会長	
ふあか 普 赤 きよゆき 清 幸	石川県商工会議所連合会 専務理事	
まなべ 眞 鍋 ともこ 知 子	金沢大学 教授	
まるやま 丸 山 としすけ 利 輔	石川県立大学参与	
やない 柳 井 せいじ 清 治	石川県立大学教授	
(1 2 名)		

(敬称略：五十音順)
任期：令和3年7月29日～令和5年7月28日

令和4年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会座席表

令和4年11月17日(木)
石川県立図書館 2階研修室

【評価委員会15:40～】



いしかわ森林環境基金評価委員会 設置要綱

(設置目的)

第1条 いしかわ森林環境基金条例（石川県条例第41号）第1条に定める「いしかわ森林環境基金」（以下「基金」という。）を財源とした事業の成果を検証・評価するとともに、事業の継続や見直しの必要性について検討するため、「いしかわ森林環境基金評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置し、もって、同事業の透明性の確保と県民の理解増進にも資する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次の事項について検討する。
(1) 事業実績及び事業成果等の検証・評価に関すること
(2) 事業の継続や見直しの必要性に関すること
(3) その他事業の推進に関すること

(組織)

第3条 委員会の委員は、市町長及び学識経験者、経済、社会教育、県民・消費、農林水産関係団体の有識者からなるものとし、別紙のとおりとする。
2 委員会に委員長を置くものとし、委員の互選により選出する。
3 委員長は、会務を総理し、委員を代表する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
2 委員の再任は、妨げない。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長は委員長があたる。
2 委員長に事故があるときは、委員長が指名する委員がこれを代行する。
3 委員長は、必要に応じ、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。
4 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
5 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の時は、委員長の決するところとする。

(議事内容の公表)

第6条 委員会は、原則として公開により実施し、議事内容は、議事要旨により公表する。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、石川県農林水産部森林管理課において行うものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は委員会で定めるものとする。

附則

この要綱は、平成20年6月9日から施行する。
一部改正 平成24年4月2日

1. 趣旨

石川県では、県土の7割を占める森林を健全な姿で次世代に引き継いでいくため、県民の理解と協力のもと平成19年度から「いしかわ森林環境税」を導入し、森林の公益的機能の維持増進に資する様々な取り組みを実施。

〈取り組み内容〉

(1) 森林整備

- ・手入れ不足人工林の整備
- ・放置竹林の除去
- ・里山における緩衝帯の整備

(2) 県産木材の活用促進

(3) 普及啓発

- ・森林や木材利用に対する理解の増進
- ・県民参加の森づくりの推進

2. いしかわ森林環境基金評価委員会

事業の透明性を確保するため、いしかわ森林環境基金評価委員会を設置し、事業の成果を検証・評価するとともに、事業の継続や見直しの必要性を検討。

- ・毎年度、事業の実績及び成果の検証・評価
- ・「いしかわ森林環境基金条例」改定時（5年毎）や情勢の変化があったときなど必要に応じて、事業の継続や見直しについての検討

いしかわ森林環境基金評価委員会 設置要綱

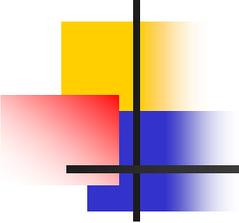
(設置目的)

第1条 いしかわ森林環境基金条例（石川県条例第41号）第1条に定める「いしかわ森林環境基金」（以下「基金」という。）を財源とした事業の成果を検証・評価するとともに、事業の継続や見直しの必要性について検討するため、「いしかわ森林環境基金評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置し、もって、同事業の透明性の確保と県民の理解増進にも資する。

(検討事項)

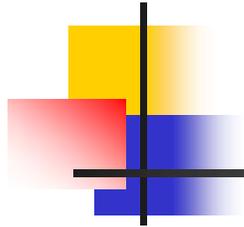
第2条 委員会は、次の事項について検討する。

- (1) 事業実績及び事業成果等の検証・評価に関すること
- (2) 事業の継続や見直しの必要性に関すること
- (3) その他事業の推進に関すること



いしかわ森林環境基金事業の 令和3年度及び第3期(H29～R3)実績

- I 森林整備
- II 県産材利用促進
- III 普及啓発



I 森林整備

- (i) 手入れ不足人工林の整備
- (ii) 放置竹林の除去
- (iii) 里山における緩衝帯の整備

(i) 手入れ不足人工林の整備

手入れ不足人工林において、通常の間伐の2倍程度にあたる40%以上の本数を一度に間引き（強度間伐）し、林内を明るくして下草や広葉樹の生長を促すことで、公益的機能の回復を図るとともに、頻繁な手入れが不要である針広混交林へと誘導。

■整備計画

- 第1～2期（H19～H28：実績約2万ha）の未整備分約1,000haと新たに発生した2,000haを併せた3,000haのうち、第3期では半数の1,500haの整備を計画

■第3期実績

（単位：ha）

項目		第3期					
		H29	H30	R1	R2	R3	計
いしかわ森林環境基金事業による強度間伐	計画	300	300	—	—	—	600
	実績	398	387	—	—	—	785
森林環境譲与税による整備	計画	—	—	300	300	300	900
	実績	—	—	29	161	231	420
計	計画	300	300	300	300	300	1,500
	実績	398	387	29	161	231	1,205

■森林環境譲与税による整備（珠洲市）

整備前



整備後



※四捨五入の関係により計は一致しない

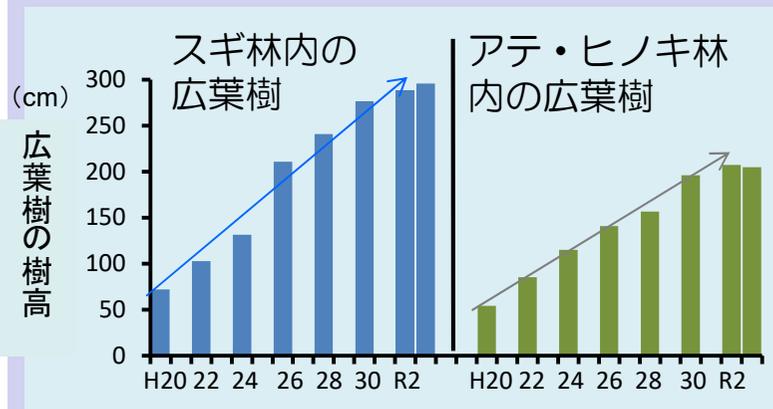
- R1年度からは、「森林経営管理制度」が開始されたことにより、市町が実施する体制に移行

環境林モニタリング（針広混交林化）調査 —多くの広葉樹が更新し生育—

- ① 強度間伐後の針広混交林化の状況：40カ所で継続調査（H20～）
 スギ林、アテ・ヒノキ林それぞれにおいて、周辺広葉樹林を構成する種の優占が進み、
広葉樹との混交林化が着実に進んでいる

■ 林内の高木性広葉樹（上位5種）の成長経過

〈スギ人工林（白山市釜谷）〉



H20年（間伐翌年）



R3年（14年後）

■ 整備直後に多くみられた広葉樹



カラスザンショウ

ネムノキ

アカメガシワ

■ 強度間伐の14年後に多くみられた広葉樹



ウワミスザクラ

コシアブラ

シロダモ

(ii) 放置竹林の除去

森林の持つ公益的機能の発揮に支障をきたすおそれのある、周辺森林に侵入・繁茂している管理されなくなった竹林の除去を実施

■整備計画

- 県内における竹林が3,200ha、うち放置竹林が2,500haと推定
- 放置竹林2,500haの中で、山地災害の防止や水源かん養機能の確保が必要なエリアの1,200haのうち600haの除去を計画
- 併せて、広葉樹の植栽と、除去後2年間の再生竹の刈払いを計画

(単位：ha)

■第3期実績

項目		第3期					
		H29	H30	R1	R2	R3	計
放置竹林の除去	計画	120	120	120	120	120	600
	実績	121	124	77	101	180	603
植栽	実績	(19)	(19)	(23)	(101)	(180)	(342)
再生竹の刈払	実績	(206)	(213)	(246)	(240)	(247)	(1,152)

〈放置竹林の除去の実施状況（黒瀬町甲 地内）〉



環境林モニタリング（放置竹林整備跡地）調査

放置竹林除去（親竹伐採と2年間の再生竹刈払い）後の植生調査：20カ所で継続（H29～）
強度間伐の跡地と同様、周辺広葉樹林を構成する種が更新し、定着が進んでいる

H29：親竹伐採（能登町字猪平（いのひら））



本数：7,600本/ha 平均被度：3.2%
平均直径：11.0cm



本数：2,800本/ha
平均直径：0.6cm

平均被度：100%



広葉樹 5種、1,100本/ha

広葉樹10種、3,700本/ha

■放置竹林除去5年後に見られる主な広葉樹



ウワミズザクラ



クリ



ホオノキ



コナラ



アオハダ



コシアブラ

(iii) 里山における緩衝帯整備

野生獣の出没を抑制することを目的として、過密化した里山林において森林の見通しを良くするため、立木竹の伐採や刈払い等の整備を実施

- 整備計画 ・野生獣の出没が多く、学校等の公共施設周辺など緊急性が高い100地区600haのうち、50地区300haの整備を計画

■第3期実績

(単位：ha)

項目		第3期					
		H29	H30	R1	R2	R3	計
緩衝帯の整備	計画	10地区 60ha	10地区 60ha	10地区 60ha	10地区 60ha	10地区 60ha	50地区 300ha
	実績	12地区 64ha	10地区 57ha	10地区 61ha	12地区 64ha	10地区 65ha	54地区 311ha

〈緩衝帯整備の実施状況（山王町2丁目地区）〉



野生獣の出没を抑制する緩衝帯整備モニタリング調査

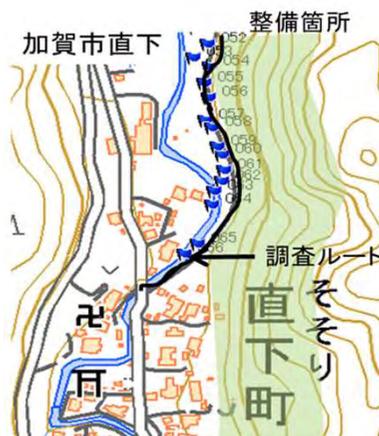
整備前後の痕跡調査や、カメラ調査により、整備後4年目においても緩衝帯の効果を確認

■整備前後における野生獣の痕跡調査

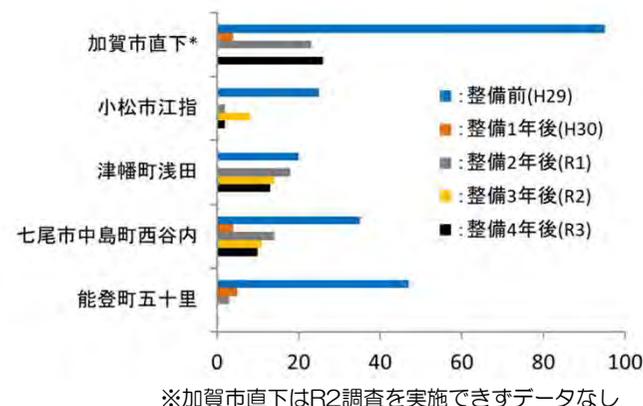
集落と緩衝帯整備森林との間に、約1kmの調査ルートを設置

野生獣の痕跡（ケモノ道、足跡、掘り返し、食害痕、落石など）の位置と数を調査

- 整備前（H29）に比べて整備後（H30～R3）は多少の年変動は見られるものの、すべての地区で減少を確認



〈整備前後の野生獣（イノシシ）痕跡数の比較〉



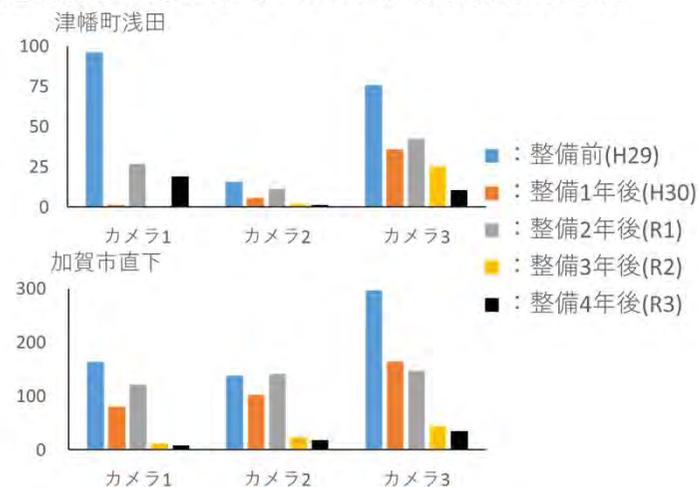
■カメラ調査

2地区に自動撮影カメラを設置し、野生獣の出没状況を調査

- 整備前（H29）に比べて整備後（H30～R3）は多少の年変動は見られるものの、すべての地区で減少を確認

※各地区では毎年度、維持管理を継続して実施

〈整備前後の野生獣（イノシシ）撮影頻度の比較〉



野生獣の出没を抑制する緩衝帯整備モニタリング調査

地域への聞き取りでは、「見通しや景観がよくなり、クマが出没しなくなったなどの声」

■聞き取り調査（調査地区7件）

○小松市江指（えさし）地区（H29実施）



（整備前）
整備前の森林はツル等で見通しが悪く、クマがいるかわからないという不安を感じていた。



現在の様子

（整備後）

- ・見通しがよくなり、動物がいても気づきやすく、安心感がある。
- ・年に1回、全市一斉美化の日に合わせて地区住民での下草の刈払いを続けている。
- ・整備前は道路から機械が届く範囲でしか行えなかった刈払いが、整備後は森林の中に入ったの整備もできるようになっている。

○金沢市田上地区（たがみ）地区（R1実施）



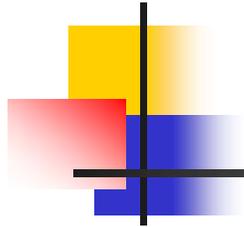
（整備前）
・毎日クマの出没があり、付近での朝晩の散歩を禁止。
・小学校の登下校時間帯に大人の当番制による見守りを実施。クマへの警戒が非常に高まっていた状況。



現在の様子

（整備後）

- ・見通しや景観が改善。
- ・クマが出没しなくなり、住民からは喜びの声が聞かれる。
- ・市の補助事業で整備後の下草の刈払い等を継続。
- ・整備箇所以外は有志による草刈りに取り組んでいる。
- ・緩衝帯整備を皮切りに、地区の諸問題に地域一丸となって取り組んでいく機運が高まる。



Ⅱ 県産材利用促進

- (i) いしかわの森で作る住宅推進事業
- (ii) 民間施設県産材需要創出モデル推進事業
- (iii) いしかわの木づかい運動推進事業

(i) いしかわの森で作る住宅推進事業

木材利用の大勢を占める住宅分野における木造率の向上や、県産材使用量の増加を促進するため、県産材を一定量以上使用した住宅に対して助成を実施

■ 県産材の使用量に応じて定額を助成

- 使用量：7m³以上 ⇒ 助成額：10万円
 - 使用量：20m³以上 ⇒ 助成額：30万円
 - 使用量：25m³以上かつ県産材使用率90%以上 ⇒ 助成額：50万円
- ※R3から外構部（木塀・ウッドデッキ）追加



■ 助成実績

区分	R1		R2		R3		計	
	助成件数	県産材使用量	助成件数	県産材使用量	助成件数	県産材使用量	助成件数	県産材使用量
5~7m ³ ※	27件	165m ³	—	—	—	—	27件	165m ³
7~20m ³ 未満	132件	1,344m ³	137件	1,410m ³	149件	1,546m ³	418件	4,300m ³
20m ³ 以上	30件	732m ³	31件	709m ³	38件	881m ³	99件	2,322m ³
25m ³ 以上 かつ 県産材使用率 90%以上	26件	934m ³	12件	406m ³	19件	620m ³	57件	1,960m ³
外構部	—	—	—	—	13件	13m ³	13件	13m ³
計	215件	3,175m ³	180件	2,525m ³	219件	3,060m ³	614件	8,760m³

(ii) 民間施設県産材需要創出モデル推進事業

木材利用が進んでいない非住宅分野における県産材需要を創出するため、モデル性や普及啓発効果が高く、県産材使用の模範となる民間施設への助成を実施

※公募の上、県産材使用部分の材料費、工事費の1/2を上限に支援（CLT等の新部材の使用場合、材料費の3/4、工事費の1/2）

■助成実績

区分	R1	R2	R3
助成対象	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所兼市民交流スペース (シモアラホールディングス(株)) ・金沢港クルーズターミナル内レストラン (株)メープルハウス) ・山中漆器工房兼ギャラリー (工房千樹) 	<ul style="list-style-type: none"> ・清水建設(株)北陸支店社屋 (清水建設(株)) ・緑化木センター事務所棟 (金沢森林組合) ・木造3階建ホテル (株)アリスト) ・がん患者向け美容院 (株)ファーストクルー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店 (株)積善余慶) ・障害福祉サービス事業所 (福)NGU福祉会) ・障害福祉サービス事業所 (福)鳥越福祉会) ・事務所 (公社)石川県浄化槽協会) ・温泉旅館 (株)山田屋) ・イオンモール白山 (イオンモール(株)) ・事務所 (株)トオカイ・ホリタ)
件数	3件	4件	7件
県産材使用量	124m ³	350m ³	177m ³
合計	14件 650m ³		

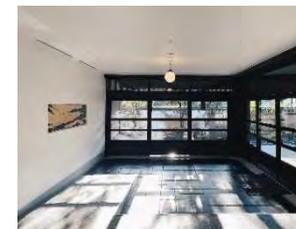
【令和3年度助成施設】



飲食店
(株)積善余慶



障害福祉サービス事業所
(福)鳥越福祉会



温泉旅館
(株)山田屋



障害福祉サービス事業所
(福)NGU福祉会



(公社)石川県浄化槽協会会館



イオンモール白山
イオンモール(株)



(株)トオカイ・ホリタ社屋

(iii) いしかわの木づかい運動推進事業

県産材利用の機運醸成に向け、県産材の認知度向上に向けた取組や、県産材の利用拡大における功績のあった者を表彰する取り組み等を実施

■Japan Home & Building Showを活用した県産材製品のPR

住まいに関する建材・部材・設備・サービスが一堂に会する日本最大級の専門展示会



令和3年度展示会

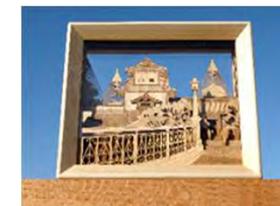
■いしかわの木づかい表彰

県産材利用部門		R1	R2	R3	計
(1) 住宅部門	①県産材の需要拡大に貢献した者	3者	3者	3者	9者
	②他の模範となる住宅	1者	1者	1者	3者
(2) 施設部門		2者	2者	2者	6者
(3) 製品部門		1者	1者	1者	3者

【令和3年度表彰物件】



(1) 県産材利用住宅部門
榎の家 どんぐりのいえ (白山市)



(3) 県産材利用製品部門
のとびこ 雅 (金沢市)



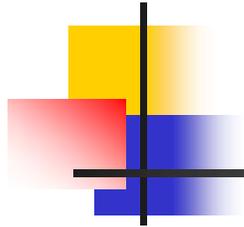
(2) 県産材利用施設部門
辰口中央児童館 (能美市)



津幡町役場 (津幡町)

県産材利用対策の効果

R1年度からの3年間における県産材利用促進対策により使用された県産材の量は 計9,410m³ であり、間伐面積に換算すると、約 1,046ha (年間約350ha) の利用間伐の推進に貢献



Ⅲ 普及啓発

- (i) 森林や木材利用に対する理解の増進
- (ii) 県民参加の森づくりの推進

普及啓発事業

「森林や木材利用に対する理解の増進」と「県民参加の森づくりの推進」を2本柱として施策を展開
税導入当初から、これまでに約18万人が取り組みに参加（第3期期間の5年間で約6万4千人が参加）。
県民意識調査を実施したところ、99.2%の人が森林の公益的機能に期待していると回答

■これまでの参加人数

区分	第1期	第2期	第3期（H29～R3）						合計
			H29	H30	R1	R2	R3	第3期計	
参加人数	53,248	68,646	13,826	16,691	16,982	8,374	8,386	64,259	<u>186,153</u>

※R2、R3は新型コロナウイルス感染症の影響により、各種活動やイベントが、中止又は規模縮小となったため、減となった。

■事業内容一覧

(i) 森林や木材利用に対する理解の増進

事業名等	事業概要
いしかわ森林環境評価委員会開催	税の用途説明及び検証のため、第3者からなる評価委員会を開催(委員12名)
いしかわの森づくり普及広報推進事業	新聞広告、チラシ・パンフの作成・配布や、イベント、のぼり旗、成果を紹介する映像や広報誌等による普及広報
いしかわ森林環境功労者表彰	県内での森づくり活動に顕著な功績のあった団体・企業・個人を表彰
いしかわ森林環境実感ツアー	親子や一般県民、小学生を対象とした、川上(間伐の現場)から川下(木造公共建築物)までを見学するバスツアーの開催
木に親しむまちづくり推進事業	建築士等を対象に、新たな建築資材(CLT等)や最新の木造建築に関する工法、県産材活用例等を紹介する講習会を開催
森林への理解を育む木育推進事業	保育園等を対象に、子どもたちへ木の大切さを伝える、遊びと学びを組み合わせた出前講座を開催

○ いしかわの森づくり普及広報推進事業

- (1) 広報誌に事業取組を掲載
- (2) 新聞に事業取組や効果などを掲載
- (3) テレビ等により、実施状況をPR
- (4) パンフレット等の配布
- (5) 農林漁業まつり、県民みどりの祭典※など各種イベントにおけるPRの実施 等

※R2は新型コロナウイルス感染症対策のため開催とりやめ



いしかわの里山里海展



いしかわ森林環境税パンフレット



農林漁業まつり



新聞広報 取組紹介

○ いしかわ森林環境功労者の表彰 (H20～)

森林環境の保全に対する貢献が顕著であり、他の模範となる者を表彰

区分	功労者	表彰者数
R3	輪島市三井小学校 富来林業研究会 中部地下開発株式会社 NPO法人39アース 灯岩そうせい会	5
R2	能美市立浜小学校 富士通株式会社 北陸支社 能登薪人の会	3
R1	能美の里山ファン倶楽部 津幡町立英田小学校 大呑グリーンツーリズム推進協議会 ケロン子ども森の学校委員会	4
H30	加賀東芝エレクトロニクス株式会社 四十万木の駅プロジェクト実行委員会 石川県立穴水高等学校	3
H29	滝ヶ原町鞍掛山を愛する会 株式会社北國銀行 かほく市立金津小学校 能登島松茸山再生研究会 中山 吉男	5
	計	20



R3は農林漁業祭りにおいて表彰

○ いしかわ森林環境実感ツアー

一般県民や小学生を対象に、手入れ不足人工林やその整備状況等の現地を見学するバスツアーを開催

〈森林環境実感ツアー（親子向け）〉（H29～）

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
参加人数	59	49	26	—	—	134



木工作体験



侵入竹整備地の見学

〈森林環境実感ツアー（一般向け）〉（H19～）

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
参加人数	52	50	34	—	—	136



真脇遺跡での体験学習



県木アテ植栽地

〈森林環境実感ツアー（こども向け）〉（H24～）

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
参加人数	278	747	380	176	495	2,076
参加校数	9	10	6	4	11	40

R3参加校(人数)

津幡町立英田小学校 (27人)	加賀市立錦城小学校 (42人)
津幡町立条南小学校 (89人)	金沢市立花園小学校 (23人)
小松市立蓮代寺小学校 (20人)	小松市立安宅小学校 (56人)
加賀市立南郷小学校 (10人)	白山市立石川小学校 (45人)
津幡町立太白台小学校 (51人)	野々市市立菅原小学校 (90人)
加賀市立勅使小学校 (42人)	合計 11校 (495人)



間伐作業の見学

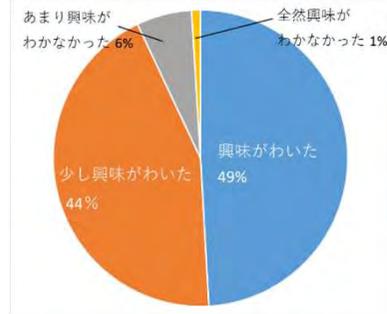


木材加工工場の見学

森林環境実感ツアーのアンケート結果

【子どもたちへのアンケート（H30～R3）】

Q：森林・林業について興味がわきましたか？(n=1,336)

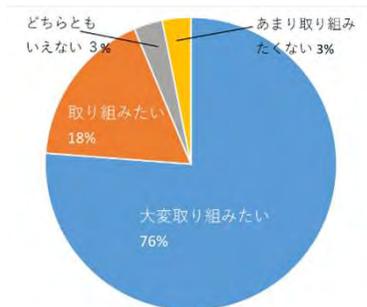


子どもたちへのアンケートの結果、実感ツアーを通して、9割以上が森林や林業について興味がわいたと回答。

→次代を担う子どもたちの森林・林業への理解が増進したと考えられる。

【先生へのアンケート（H30～R3）】

Q：今後もこのような森林環境教育や体験学習に取り組んで行きたいですか？(n=63)



先生へのアンケートの結果、9割以上が今後も森林環境教育や体験学習に取り組んで行きたいと回答。

→森林や林業への理解増進に取り組む人材や環境づくりが進んだと考えられる。

【児童や先生の声】

・普段は感じられない自然が見えてきて、森林のことをもっと知りたくなりました。

・今まで木や森のことにはまったく興味がなかったけど、自分の生活のまわりではたくさんの自然を使っていると知り、これまで以上に自然を守りたいと思いました。

・1つの机ができるのに木を切って、運んで、乾燥などの加工を加えてやっとできることを知って、僕たちが使っている机1つにはたくさんの人々のお世話があることを知れて良かったです。もっと大切に使いたかったです。少し木に興味を持ちました。

・僕は最初木を切ることはあまりよくないことと思っていたけど放っておいたら日光が当たらなくなってしまい、それを防ぐために木を切っているのだと思いました。

・見学してよかったです。なぜなら、今後の仕事になるかもしれないからです。

・ぜひ、次回も応募します！このツアーに参加しなければ木の伐採は自然にとってマイナスだと思っていた。(先生)

・授業では、十分扱えない部分、生の現場が見れるということで、貴重な体験学習だと思います。(先生)

・人の手で手入れや伐採が行われそれを加工して製品になっていることが通して見られ、まさしく「実感」することができた。(先生)



○ 木に親しむまちづくり推進事業 (H29～)

県民共有の財産である森林の適切な整備・保全を進めるために、木材利用に対する理解を深める取組として、評価委員会での検討を踏まえ、平成29年度より開始。

建築士、関係者等を対象に、木造建築の最新事例や設計のノウハウに関する講習会を開催

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
開催回数	4	5	7	4	5	25
参加人数	196	227	298	229	248	1,198



現地見学会



先進事例視察



木材市場見学



製材工場見学



講習会

R3開催日	講習会題目	講習会内容	参加人数
10/30 (土)	実務に役立つ木の知識	木造工事仕様書・木質材料の解説、製材品の実物による材の等級区分や木材の特性の解説	59
11/30 (火)	京丹波町役場新庁舎見学 ～地場産材を活用した新庁舎～	地場産材を活用したプロポーザル事例における、設計者や木材コーディネーター、木材生産者等の連携を学ぶ	42
2/5 (土)	木質構造の基礎と最新事例	構造設計の基礎知識と、実例を通じた具体的な設計手法を学ぶ	58
3/5 (土)	木質構造の設計演習 (模擬設計)	4階建てオフィスを想定した木質構造設計演習課題の発表と	44
3/25(金)	清水建設北陸支店新社屋見学 ～都市部での木材利用を考える～		45
合計			248

木造建築への理解が深まり、
良い機会となった

建築士



※R4年度は、9月～3月に5回程の開催を予定

○ 森林への理解を育む木育推進事業 (H29～)

〈木育出前講座〉

県内の保育施設を対象に、森の大切さや木の良さを伝える「木育」の出前講座を実施

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
実施施設数	10	10	10	9	7	46
参加人数	647	377	501	281	248	2,054



自然体験



木工作教室

〈木育セミナー〉

県内の保育士及び教員を対象として、木育についての知識やノウハウを伝達できる人材を増やすためのセミナーを実施

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
実施回数	4	4	4	—	—	12
参加者 (保育士等)	112	192	80	—	—	384

※一定の人材育成ができたことからR1で終了



日々の保育計画の視点

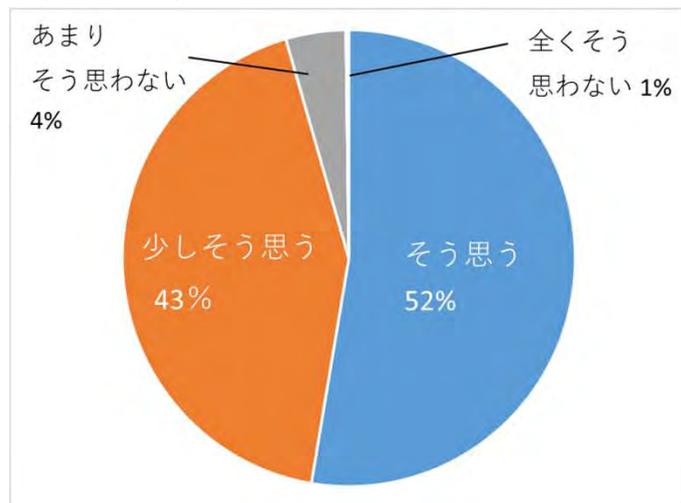


フィールドワーク

○ 森林への理解を育む木育推進事業 (H29～)

【保護者、先生へのアンケート (H29～R3)】

Q：子どもたちが木への親しみを持てたか？
(n=490)



保護者、先生へのアンケートの結果、9割以上の方が「子どもたちが木への親しみが持てた」と回答。

→子ども、保護者、先生の木材利用への理解が増進したと考えられる。

【参加者の声】

- 木育を続けてもらえたら嬉しい (保護者)
- 木工活動のほか、自然の中で木々に触れる機会が多できると良いと思うようになった (保育士)
- 木育は子供が成長するのに必要な要素が多数含まれており、子供たちに最適な教育だと改めて感じた (保護者)
- まずは本物の木に触れることで自然への興味関心を持つきっかけになるのだと感じた (園長)
- 木育後も、散歩や公園に出かける中で、子供たちの木、葉、木の実などの見方が変わった気がする (保育士)
- 自分たちの知識の足りなさを感じ、子供たちと一緒に調べたりすることも大事にしたいと思う (保育士)
- 木育は今の子供や大人にとっても貴重なことだと思う。今後も重要視されると思う。 (園長)



(ii) 県民参加の森づくりの推進

事業名等	事業概要
こども森の恵み推進事業	次世代を担う子供達を対象とした森林環境教育や体験活動を実施するNPO等への支援
いしかわの森づくり推進月間事業及び県産材利用推進月間事業	毎年10月の推進月間において、県民が参加する森づくりイベントを開催
企業の森づくり推進事業	企業による森づくりを推進するためのフィールドマップの作成や企業に対する説明会、現地見学会などの開催
いしかわ身近な森保全事業	里山林等において地域住民等と協働して行う森林整備や木材等の利用活動への支援
森づくりボランティア推進事業	里山等の森づくり活動を自主的に実施するNPO等への支援
里山子ども園推進事業	里山を活用したもりの保育園のモデルプログラムの企画実施、保育士等の体験会実施
いしかわの森整備活動CO2吸収量認証事業	企業等が実施した森づくり活動に対するCO2吸収証書の発行
いしかわ版CO2削減活動支援事業	企業への森林保全活動(CO2削減活動)に対する理解促進
いしかわ景観キッズプログラム	小学生を対象に、里山景観に関心を抱き、大切さを学習する体験教室を開催

○ こども森の恵み推進事業 (H19~)

子ども達を対象に森林環境教育や森林体験活動を行うNPO団体等を支援

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
団体数	17	18	18	12	18	83
参加人数	4,518	6,112	7,265	2,685	2,789	23,369



森林環境教育



植樹体験

○ いしかわの森づくり推進月間事業及び県産材利用推進月間事業 (H19~)

毎年10月を「いしかわの森づくり推進月間及び県産材利用推進月間」と定め、県下全域で県民森づくり大会を開催

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
地区数	5	6	5	3	4	23
参加人数	413	1,482	289	121	116	2,421

※新型コロナウイルスのためR2, R3は地区数を削減して実施



植樹

R3 開催日	開催テーマ	大会内容	参加人数
10/22 (金)	小舞子海岸の森づくり (白山市)	県産材ベンチ作製、下刈り	17
10/23 (土)	火打谷 苗木の里の森づくり (志賀町)	県産材ベンチ作製、苗木周辺の整備	16
10/27 (水)	木を使い森を育てて郷土の森を守ろう (小松市)	県産材ベンチ作製、下刈り	23
10/28 (木)	能登の里山 広葉樹の森づくり	広葉樹 (コナラ) の植栽	60
計	4地区		116



県産材ベンチ設置

○ 企業の森づくり推進事業 (H19~)

企業による森づくり活動を推進するため、活動事例集の作成、企業に対する説明会や現地見学会の開催、活動フィールドの仲介、技術指導等を実施

区分	H29	H30	R1	R2	R3	合計
新規協定締結企業数	8	4	3	1	2	18
締結企業数	57	61	64	65	59	59
活動フィールド数(地区)	65	63	64	63	64	64
協定面積(ha)	137	141	118	117	115	(のべ) 628
森づくり活動参加人数	4,260	3,558	3,950	1,953	1,671	15,392



植樹の様子

※R3年度は、8月末に企業への説明会および現地見学会、10月に体験会を実施

○ いしかわの身近な森保全事業 (H19~)

森林所有者等と協定を締結し、里山林の整備保全等を地元と協働して行うNPO・団体等を支援

区分	H29	H30	R1	R2	R3	合計
支援地区数	13	8	6	7	6	40
参加人数	360	304	317	121	103	1,205
森林整備等面積(ha)	18.4	4.4	11.0	14.5	9.1	57.4



森林の整備



伐採竹の再利用

○ 森づくりボランティア推進事業（生活環境部温暖化・里山対策室と連携）（H19～）

自主的な森づくり活動を行うNPO等を支援

区分	H29	H30	R1	R2	R3	合計
団体数	12	14	18	16	14	<u>74</u>
参加者数	1,107	1,493	1,805	1,377	1,273	<u>7,055</u>
森林整備等面積 (ha)	41.0	28.8	29.1	16.6	12.2	127.7



老木の伐採



桜苗木の植樹

○ 里山子ども園推進事業（生活環境部温暖化・里山対策室と連携）（H20～）

保育園・幼稚園の園児を対象に里山を活用した環境教育を実施

区分	H29	H30	R1	R2	R3	合計
実施回数	37	57	59	59	57	<u>269</u>
実施園数	34	53	52	45	47	<u>231</u>
参加児童数	1,083	1,447	1,403	1,378	1,416	<u>6,727</u>



夕日寺健民自然園



木場潟公園中央園地

→保育士の9割以上が



今後、園独自で自然体験
活動を実施したい

と回答

(H29～R3 : n=551)

○ いしかわの森整備活動CO₂吸収量認証事業 (生活環境部温暖化・里山対策室と連携) (H19~)

企業等が行う森づくり活動による二酸化炭素の吸収量証書を交付

区分	H29	H30	R1	R2	R3	合計
認証数	18	18	19	18	16	89
認定吸収量 (t-CO ₂)	49.7	45.3	50.3	60.7	63.5	269.5



森林整備活動CO₂吸収証書交付式

○ いしかわ版CO₂削減活動支援事業 (生活環境部温暖化・里山対策室と連携) (H29~)

企業等から協賛を募り、NPOやボランティア団体等の営利を目的としない団体が行う森林保全活動を支援

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
団体数	11	14	10	—	—	35
参加人数	613	494	482	—	—	1,589



植栽地の下刈



ロゴマーク



※事業内容の見直しにより、R1年度で終了

○ いしかわ景観キッズプログラム（土木部と連携）（H21～）

小学生を対象に里山の景観保全と森づくりの大切さを理解する体験学習を実施

区分	H29	H30	R1	R2	R3	計
学校数	2	2	1	—	1	6
参加人数	64	114	78	—	27	283

※R2は新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見合わせ、プログラム教材「いしかわの景観を学ぼう！」の更新を行った。



能登町立鶴川小学校

→参加者の声

授業と地元の方のお話を聞いて、
風景や景観に対する理解が
深まった



(参考) 第3期 事業実績

(単位：百万円)

区分		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	第3期計
事業費	強度間伐※1	157	153	-	-	-	310
	放置竹林除去等※2	300	317	287	453	378	1,735
	緩衝帯整備	20	22	26	28	25	121
	県産材利用促進対策	-	-	74	69	77	220
	普及啓発※3	31	34	35	34	34	168
	計	507	526	422	584	514	2,553
財源内訳	森林環境税充当額	<u>360</u>	<u>383</u>	<u>378</u>	<u>374</u>	<u>382</u>	<u>1,877</u>
	国庫補助金	147	143	44	210	132	676
	計	507	526	422	584	514	2,553

※四捨五入の関係により計は一致しない

- ※1 手入れ不足人工林の強度間伐
- ※2 放置竹林の除去、再生竹の刈払、植栽
- ※3 県民の理解増進と県民参加による森づくり

令和3年度いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

いしかわ森林環境基金評価委員会では、第3期の最終年度の昨年度において、「いしかわ森林環境基金評価委員会」設置要綱第1条及び第2条に基づき、これまでの事業実績及び事業成果等の検証・評価を行うとともに、令和4年度以降の事業の継続や見直しの必要性について、検討を行った。

<検討経緯>

第1回（令和3年7月30日）

いしかわ森林環境基金事業の取組実績の検証及び今後の方向性に係る検討

第2回（令和3年9月30日）

放置竹林の除去と、緩衝帯整備の現状と課題

第3回（令和3年10月29日）

いしかわ森林環境基金事業の取組成果と今後の方向性（中間とりまとめ）

パブリックコメント実施 令和3年10月30日～11月12日

第4回（令和3年11月17日）

いしかわ森林環境基金事業の取組成果と今後の方向性（最終とりまとめ）

- 基金事業により、森林の公益的機能の維持増進が図られているほか、森林に対する県民の理解増進と県民参加の森づくりも着実に進展している
- 他方で、更なる森林の公益的機能の維持増進に向け、
 - ・ 近年のクマの大量出没等を踏まえ、人身被害を防ぐため、緩衝帯整備の強化が必要
 - ・ 近年の豪雨の増加を踏まえ、山腹崩壊や洪水の発生を防ぐため、集落周辺と水源域のうち集落に近い放置竹林の速やかな除去が必要
 - ・ 手入れ不足人工林の発生の未然防止には、持続的に県産材の利用を促進する必要
- これらのことから、いしかわ森林環境税を延長（現行の税収規模を維持）し、R4以降も、基金事業を継続すべき

12月議会にて、課税期間の5年間の延長が決定

いしかわ森林環境基金事業の 令和4年度の取組内容

I 森林整備の取組

1 豪雨による山地災害を防止するための放置竹林の除去

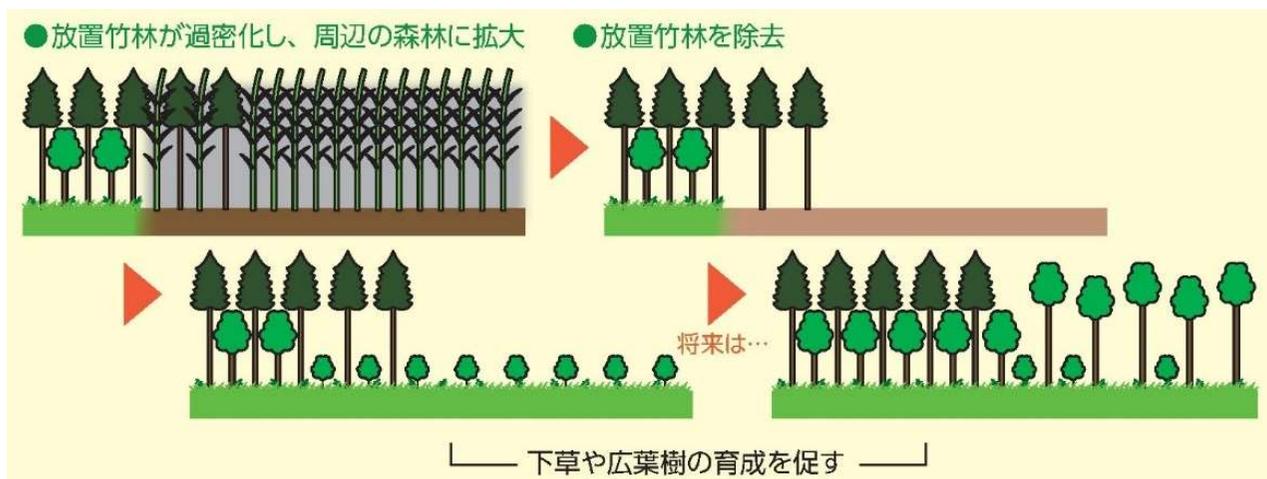
近年の豪雨の増加を踏まえて、放置竹林に起因する山腹崩壊や洪水の発生を防ぐため、集落周辺と水源域のうち集落に近い放置竹林を重点的に、除去を実施します。

第4期(R4~R8)の計画: 550ha

(集落周辺を優先し、地区の同意が得られた箇所から順次実施)

令和4年度

項目	計画面積
放置竹林の除去	110ha



2 野生獣の出没を抑止するための里山林における緩衝帯整備

野生獣の出没を抑制することを目的として、過密化した里山林において森林の見通しを良くするため、立木竹の伐採や刈払い等の整備を実施します。

第4期(R4~R8)の計画: 80地区 ※近年のクマの出没等を踏まえ、取組を強化(過去3年間に野生獣の出没回数が多かった地区の中から、各地区の要望等を踏まえて選定)

令和4年度

項目	計画
緩衝帯整備	16地区



Ⅱ 県産材利用促進の取り組み

県産材の需要を拡大させることで、森林の適切な手入れを進め、森林を健全な状態に維持します。

拓

いしかわの森で作る住宅推進事業

県産材を使った住宅等を新築・増改築・購入する方への助成により、住宅分野における県産材需要を拡大

助成要件を拡充



新

いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業

県産材使用率などの助成要件を満たした民間施設について、県産材使用に係る経費の一部を助成することにより、住宅以外の建築物における県産材の需要を拡大

モデルから普及へ

いしかわの木づかい運動推進事業

県産材の認知度向上に向けた取組や、県産材の利用拡大に功績のあった者の表彰などにより、県産材利用の機運を醸成

Ⅲ 普及啓発の取組

普及啓発事業一覧(令和4年度)

区分	事業名等		事業概要	
森林や木材利用に対する理解の増進	1	いしかわ森林環境評価委員会開催	税の検証及び評価のため第三者からなる評価委員会を開催	
	2	いしかわの森づくり普及広報推進事業	新聞広告、チラシ・パンフの配布や、広報誌等による普及広報	
	3	いしかわ森林環境功労者表彰	森づくり活動に顕著な功績のあった団体・企業・個人を表彰	
	4	いしかわ森育・木育推進事業	森林への理解を育む木育推進事業	保育施設を対象に、木育の出前講座を実施
			里山子ども園推進事業	保育施設を対象に、里山を活用した「もりの保育園」モデルプログラムの体験会等を実施
	5	いしかわ森林環境・里山景観実感ツアー	いしかわ森林環境実感ツアー	小学生や一般県民等を対象とし、間伐の現場から木造建築物に至るまでを見学するツアーを開催
いしかわ景観キッズプログラムの開催			小学生を対象に、里山景観について学習する体験教室を実施	
6	木に親しむまちづくり推進事業		建築士等を対象に、最新の木造建築の工法等の講習会を開催	
県民参加の森づくりの推進	7	いしかわの森づくり推進月間事業及び県産材利用推進月間事業		毎年10月の推進月間において、県民が参加する森づくり・木づかいイベントを開催
	8	いしかわ県民参加の森づくり推進事業	こども森の恵み推進事業	こども達を対象とした森林環境教育を実施するNPO等への支援
			森づくりボランティア推進事業	森づくり等のボランティア活動を実施するNPO等への支援
			いしかわ身近な森保全事業	住民との協働により、地域の里山林の整備や利用活動を行う地域団体等への支援
			フォレストサポーターによる森づくり推進事業	フォレストサポーターを育成するための講習の実施
9	企業の森づくり推進事業	企業の森づくり推進事業	企業等を対象に、森づくり活動の説明会や現地見学会を開催	
		いしかわの森整備活動CO2吸収量認証事業	企業等が実施した森づくり活動に対するCO2吸収証書の発行	